

栄養クリニックのあゆみ

〔はじめに〕

平成20年7月、本学の教育研究機関として始動した栄養クリニックも、8年目を迎えた。平成24年度より、新たに建設された研究所棟へ活動の拠点を移したことで、活動の幅が広がり、当クリニックの利用者は増加した。これからの活動をより充実したものとするために、過去5年間の活動実態を企画別に数値で振り返ってみることとした。〔平成20～23年度については、活動報告書第4号（2011年度）p. 57参照〕

〔地域連携事業・公開講座等〕

食と健康に関する情報提供、普及啓発を目的とし、学内外で公開講座や講演会を実施している。過去5年間の事業実施回数、および参加者の推移を図1．2に示した。

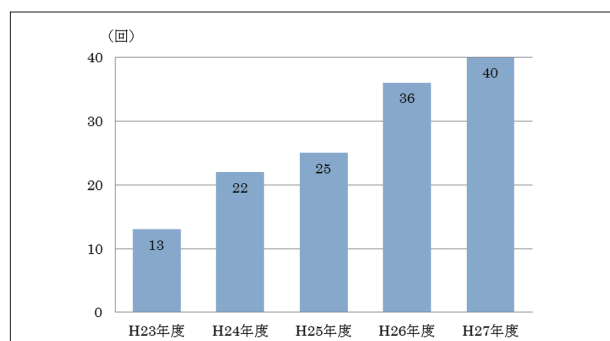


図1 実施回数

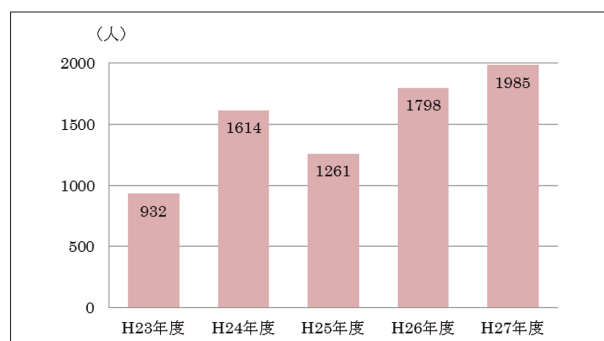


図2 参加者数

地域住民を対象とした公開講座では、「おいしさ与健康」、「骨粗鬆症予防」、等のテーマで、講演を行っている。地域住民の食への関心は高く、平成27年度に「健康寿命の延伸」をテーマに実施した公開講座では、参加者300名を超え、開設以来の快挙となった。開設当初と比べると、栄養クリニック認知度が高くなり、現在では多くの企業・行政と協力し、活動の場所が増えている。

今後も大学での研究成果を社会へ還元する方法として、活動の範囲を広げながら健康情報の発信に努めてゆきたい。

〔栄養クリニック健康料理教室・栄養指導等（料金を徴収する講座）〕

料理教室は、食事の楽しさ、健康増進・疾病予防、食文化の伝承等、毎回さまざまなテーマで実施しており、料理を通して市民の方々に栄養と健康、食生活のあり方を学んでいただく重要なプログラムである。テーブルコーディネート講座では、季節感のある食卓や文化的豊かさのある食空間など、豊かな心を育む食卓演出法を紹介している。

過去5年間の料理教室の実施回数、および参加者数の推移を図3．4に示した。

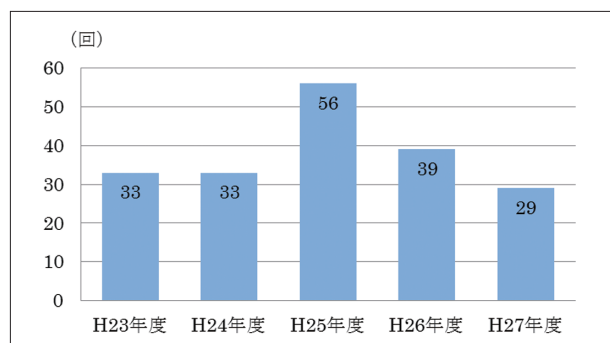


図3 料理教室等 実施回数

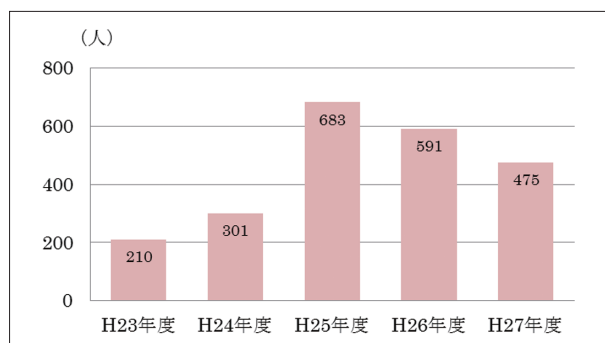


図4 料理教室等 参加者数

平成24年度に施設を移転し、その年は施設準備のためフルでの活動ができなかったが、平成25年度にはフルでの活動に加え、調理室スペースも拡大したことから、料理教室の受け入れ人数が大幅にアップした。大学の広告塔の役割も果たす栄養クリニックは、開設当初より地域連携事業に力を入れてきた。栄養クリニックの知名度が高くなるにつれ、地域連携事業などが年々増加するに伴い、マンパワーの関係で、料理教室の実施回数を平成26年度から減らさなければならない現状となった。多くの方に、好評を得ている料理教室だが、より健康情報の発信を意識した教室にできればと考えている。栄養相談は栄養クリニックの重要な活動と考えており、設立当初より利用者が少ないものの、本年度は延べ21回実施した。

[学園内連携・在学生、卒業生向け講座]

在学生および卒業生に向けての生涯学習は、当クリニックの設立の目的の一つである。また、施設が整備された平成24年度より学生生活センターからの依頼で、在学生への支援として調理の基礎を学ぶ料理教室を開催している。過去5年間の実施回数、および参加者数の推移を図5、6に示した。

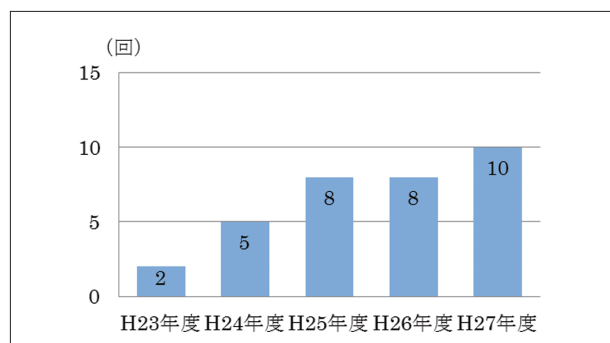


図5 実施回数

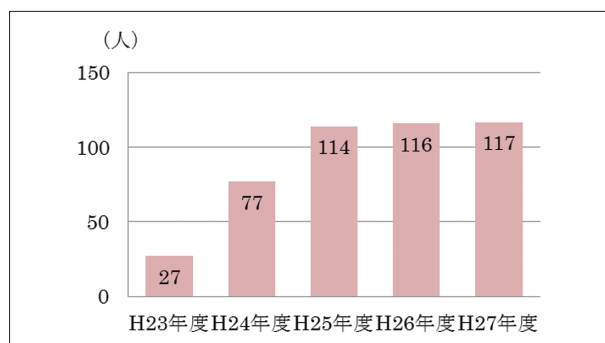


図6 参加者数

平成25年度より、実施回数および参加人数は大きな変化はない。卒業生を対象に、学習会を実施しているが、参加者数が伸び悩んでいる。そこで、昨年度より、卒業生登録制度を設け、食物栄養学科のネットワークづくりを進めている。登録は任意で、登録者にはメールで情報発信を行い、対象者に確実に学習会等の情報が届くように環境を整備している。今後も、学習会の実施形態を見直し、参加者数増加に向けて、工夫していきたい。(原 稚紗)